

令和5年度 結果の分析及び今後の改善策

( 中間・最終 )

昭和北中学校区 校番 22 学校名 呉市立昭和西小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
*** (責)  確かな学力	基礎的・基本的な学力の定着を図る。  基礎的・基本的な学力の定着を図り、主体的な学びを通して、積極的にコミュニケーションを図る児童を育成する。	基礎的・基本的な学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力に課題がある児童の割合は、国語科7.7%、算数科12.1%と昨年度を上回った。</li> <li>学力に課題がある児童は前学年の学習内容の定着に課題が見られる。特に、中学年の学習内容で差が始め、高学年の学習の理解が難しくなる傾向がある。</li> <li>校内の体制が整っておらず、課題のある児童の対応が追いつかず、全児童が落ち着いて学習できる環境の整備ができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習を計画的に実施し、課題の見られる学習内容の習熟を図る。</li> <li>ドリル学習(反復練習)を行うことで、知識の効率的な定着を促し、達成感を味わえるようにする。</li> <li>Qubenaのワークブックを週1回家庭学習として実施する。(児童の主体性の育成)</li> <li>授業全体の時間配分を見直し、「まとめ」や「振り返り」の活動の時間を確保する。</li> </ul>
		自ら積極的にコミュニケーションを図る児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>短期経営目標に対する児童の割合は90%であった。</li> <li>進んで自分の考えを書いたり発表したりする児童の割合は昨年度は77%だったが、今年度は86%と数値が上がった。</li> <li>教師が聞くことの徹底を図ったり、児童に自分の考えをもたせる手立てをしっかりと行ったことが結果につながっている。</li> <li>「単元を貫く問い」を意識した授業や課題探求的な学習を取り入れた授業実践が他の取組に比べ、不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題探求的な学習や対話的な学習を取り入れた授業実践の交流を学年間で定期的に行う場を設定する。</li> <li>引き続き「聞く」ことの徹底を図るが、「聴く(傾聴する)」姿勢を大切に、丁寧に指導を行う。(相手の考えを理解しながら聴く姿勢)</li> <li>1日1回全員が発表できるように、児童が発言する機会をできるだけ多く設定する。また、肯定的評価や評価の可視化を行うことで、発表に対する前向きな姿勢と意欲の向上を図る。</li> </ul>
** (責)  豊かな心	社会性を涵養するとともに自己有用感を養う。  規範意識を育成する。	道徳的実践力の育成を通して自己有用感を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分にはよいところがある」児童の割合は85.9%、「自分は役に立っている」児童の割合は83.6%であった。</li> <li>学年が上がるほど、肯定的評価が低い傾向が見られる。</li> <li>教員アンケートで、「自己有用感を高める取組をしている」割合は、92%、「日頃から肯定的な声かけをしている」割合は100%であった。</li> <li>各学年、発達段階に応じて工夫して異学年交流を行うことができた。ペア学年が同じ階になり、サポートしやすくなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事等の際、自分の頑張りを成長を振り返ると同時に、学年間で認め合う場を設ける。</li> <li>縦割り班活動や異学年交流では、それぞれの立場で活躍できる場を設け、成長した部分の振り返りをさせる。</li> <li>学活や帰りの会等で自分の頑張りを振り返らせるとともに、お互いのよいところを褒め合う場を設ける。</li> </ul>
		規範意識を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の生活目標ができていない児童は、88%であった。</li> <li>「黙々掃除ができていない」児童の割合は92%、教師の割合は84%であった。児童の意識と、教員の見取りに差がある。</li> <li>掃除時間、課題のある児童への対応ができていない実態がある。</li> <li>廊下歩行がなかなかできない実態がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポスターを作成したり、放送をしたりするなど委員会活動で児童が主体となって全校へ呼びかけていくような取組を仕組む。</li> <li>縦割り班連絡会で、課題のある児童への対応を共通認識していく。</li> <li>掃除分担や掃除の仕方、めあてを再確認し、全教職員が意識統一をして指導していく。</li> <li>廊下歩行のポスターを掲示して視覚支援を行い、意識できるようにする。</li> </ul>
*  健やかな体	健康な体をつくり自分の命は自分で守る力を身に付ける。	体力・運動能力を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>新体力テストの各学年平均が昨年度の平均を下回った児童の割合は4.4%だった。全体的に昨年度よりも平均が上がっている。種目別に見ると、上体起こしは5つの学年、長座体前屈は3つの学年で昨年度の平均を上回っている。昨年度、2学期以降の宿題で柔軟運動を取り入れた成果だと考えられる。平均を下回った種目では、握力が全学年、ソフトボール投げは5つの学年で平均を下回っている。</li> <li>くれチャレンジマッチの取組は、全学年1回以上できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度に引き続き、宿題で柔軟運動を取り入れて継続的な取組を行う。</li> <li>体育の授業で、投の運動や握力をつけることにつながる運動を必ず取り入れる。(活動例を示した用紙を職員に配付する。)</li> <li>くれチャレンジマッチでは運動委員会で作成した各学級の順位と得点を掲示し、見える化を行うことで児童の意欲を促す。</li> </ul>
		災害や交通事故から自分の命を守る意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難場所を知っている児童は全校で94%。2年生以上は目標値を達成しているが、呉市で目指すのは100%のため、まだ十分とはいえない。学年が上がるにつれて、「小学校」以外の避難場所も知っており、意識づけられてはいる。</li> <li>家庭で防災について話している割合が63%と低い。「土砂災害対応携帯マニュアル」は、各学年必ずチェックもしてもらって取組はできているが、「ひろしまマイ・タイムライン」を活用した取組ができていない。(タイムラインを紛失している児童がいるため。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学期以降も繰り返し指導を行うことで、児童の防災意識を高めていく。</li> <li>「ひろしまマイ・タイムライン」を紛失した児童がいる。配付後の管理方法について学校で再度意識統一をしていく。(1・4年生は新年度に配付される。それ以降は個人ボックスに入れて持ち上がる。)</li> <li>保健指導や総合的な学習の時間等での取組を通信で知らせ、家庭で話す機会を作る。</li> </ul>
業務改善	持続可能な教育環境を整備する。	長時間勤務を削減する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>効率的な業務の見直しで十分でなく、45時間を超えなかった教職員4月47.6%、5月47.6%、6月23.8%、7月66.7%と、十分な改善ができていない。</li> <li>定時退校への意識が高まり、昨年度同時期と比較し(昨年度達成度44%→今年度達成度67%)改善傾向が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームとして組織的な人材育成をさらに推進し、職員の主体性を活かした業務改善を進める。</li> <li>定時退校の徹底を図るため、行事等への取組を見直し、実施する。</li> </ul>